

2012年度入試（B日程）小論文試験の出題趣旨と採点ポイント

【設問1】

■ 出題趣旨

この問題は、裁判員裁判の導入により、最近大きな社会的な論争点にもなっている「裁判員制度と死刑」というテーマについて、受験者なりの考え方を尋ねるものである。できるだけ論旨がわかりやすいものをと考え、新聞の社説から引用した。

そのさい、問題では「裁判員制度と死刑」というテーマについて、自分が論ずべきだと思う論点を提示して」とあるので、受験生は、各社説からまず論点を見つけてくる作業が要求される。

社説1では、少年に死刑判決を言い渡した事例なので、裁判員裁判で少年を裁くことに関する論点を取り上げ、論じればよい。

社説2では、はじめて死刑判決を言い渡した事例なので、死刑にする基準（いわゆる永山基準＝私自身は、このように被告人の名前をレッテルにするのはいかがかと考えているが）の妥当性、死刑制度そのものの是非等の論点を取り上げ、論じればよい。

社説3では、3人が殺害された事案で、第1審では死刑判決が3人、一方、1人には無罪判決もでた。裁判員裁判のむずかしさも書かれているし、裁判員の心理的な負担も大きな論点だ。

この中から、論点を取り上げ、自分の見解をしっかりと論じればよい。

■ 採点のポイント

（1）どのような論点をはっきりと取り上げられているか？

（2）その論点について自身の見解がしっかり述べられているか？

で、A、B、Cの3ランクに区別し、点数をつけた。

■ 感想

このテーマはいま大きく取り上げられているテーマで、しかも法科大学院に進学しようとしている学生なら、一度は考えたり、議論したのではないかと思ったが、案外、そのような答案は見あたらなかった。テレビの前での雑談程度の「普通の市民のレベル」の答案が多かったように思う。法科大学院に進学しようとするなら、日々、新聞に眼を通して、社会的な問題にある程度の関心をもちつづけてほしい。

小論文試験問題の出題の趣旨

〔設問 2 の出題の趣旨〕

政府が示している次の図（「社会保障・税一体改革」の別紙に示された図）から、消費税率を現在の 5 % から 10 % まで引き上げる必要がある理由を推論させるもので、図表の読み取り、分析力を問う問題である。

具体的には、高齢者 3 経費だけで、現在、22.1 兆円を要しており、このうち消費税収で賄っているのは、半分強の 12.8 兆円にすぎず、不足分については、所得税や法人税など他の税収による一般財源や公債で賄われているが、現行の税率を維持した場合、2015 年度で、高齢者 3 経費について 5 % 弱相当の不足になるため、消費税を 5 % 引き上げ 10 % にして不足分を賄うとの理由になる。